

わたしから始める、世界が変わる

Hunger Zero News

2019. No.346 5
ハンガーゼロ・ニュース

マイ村からアルサビ村へ移住のため、
村づくりのワークショップで話し合う
住民たち (P.4-6にHOLPFI記事)



contents

ハンガーゼロ活動報告

ハンズ・オブ・ラブ・フィリピン
～困難に立ち向かうマイの人々～

モザンビーク・サイクロン被災者支援

チャイルドサポーター

子どもたちを取り巻く大きな課題

1分間に17人 (内12人が子ども)
1日に2万5,000人が
1年間では約1,000万人が
飢えのために生命を失っています

モザンビーク・サイクロン 緊急支援にご協力ください



3月14～15日に強力なサイクロン・アイダイ (Idai) がアフリカ南部のモザンビーク、ジンバブエ、マラウイを襲いました。アフリカと南半球で起こった過去最大の自然災害 (国連) といわれ、甚大な被害が出ています。

特にサイクロンが上陸したモザンビーク第2の港湾都市ベイラでは、暴風と激しい雨により近隣諸国から流れ込んでくる水 (ダム) の放流で河川が氾濫、死者が1000人に達する恐れがあると発表されています。(4月1日現在)

ベイラでは多くの人々が家の浸水や流出で住む所を失い、道路の寸断、水道や電気・通信設備の崩壊で都市機能がマヒしています。国連の救援隊は「ベイラにある全ての建物が被害を受けた。電気も止まっている。通信手段もない。道路は落下した電線でいっぱいだ」と話しました。さらにコレラやマラリヤなどの感染症も出ています。(国際

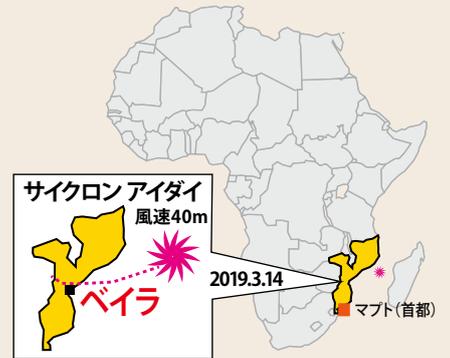


赤十字)。河川の氾濫で120万エーカー (1エーカー 4064平方メートル) の耕作地が水没し、農民にとって収穫は絶望的になった上、地域の食料不足も懸念されています。

このような状況に、被災直後に国連が被災者が170万人に及ぶとの緊急声明を出しています。

3344の学校建物が破壊

ハンガーゼロの元モザンビーク駐在員ローレンス綾子さんは、FHモザンビークからの情報として「サイクロンによ



り破壊された学校建物が3344校に達し、影響を受ける生徒数が180,854人にも及んでいる」と報告しています。「ベイラでは170の教会建物全体の9割が全壊また半壊。そのような中で、牧師のネットワークが人々が希望を失わないように動き出しています」と現地キリスト教会の被害状況も知らせてきています。なお、ローレンス綾子さんは4月上旬に現地に入り、新たな情報を届けてくれる予定です。ハンガーゼロは、現地のFH (国際飢餓対策機構) モザンビークやKFHI (韓国)、国連機関とも連携しながら、食料や壊れた学校の再建などの支援を行います。また、アフリカ・コンゴ民主共和国駐在のジェロームスタッフを現地に送ることも検討しています。

サイクロンで多くの人々が避難生活を強いられています。ぜひ、被災者緊急支援にご協力をお願いいたします。

緊急支援募金の送金方法

緊急募金は、郵便振替又はウェブサイトから直接クレジットカード決済が利用できます。
ウェブサイト <https://www.jifh.org>
郵便振替 00170-9-68590 日本国際飢餓対策機構
※記入欄に必ず「モザンビークサイクロン」と明記



▲スマホから募金ページに

JAMMIN

オリジナルTシャツなどの販売でモザンビーク応援



5/13 からウェブで1週間限定販売 1枚につき700円を寄付に

毎週一つの NGO/NPO の活動をモチーフにした限定アイテム (Tシャツ、パーカー、ショッピングバッグなど) を制作・販売して売り上げの一部をコラボした団体へ寄付している京都発のアパレルブランド「JAMMIN (ジャミン)」は、2014年4月に立ち上げて以来、250を超える様々な団体に3,000万円を超える支援をしてられました。

今回ハンガーゼロとコラボが実現し、5月13日から1週間、JAMMIN さんの HP (<https://jammin.co.jp>) からこの限定アイテムを購入していただくと、Tシャツの場合、1枚につき700円がハンガーゼロへの寄付となり、モザンビークの緊急支援のために使わせていただきます。皆様のご協力をお願いいたします。※右上に JAMMIN さんQRコード



JAMMIN の皆さん (オリジナルTシャツを着用)
※5/13 に発売するコラボ商品ではありません



「社会をよくしたいと思う人の気持ちを、少しずつ・たくさん集めて、ほんのちょっとでも社会をより良くしていきたい」という願いをこめて。

JAMMIN 合同会社 (JAMMIN LLC.) 代表 西田太一
京都府京田辺市大住池ノ谷 45-1



チャイルド

CS サポーターさんの楽しい交流広場

Child Supporter
チャイルドサポーター

4月5日～7日、沖縄の3ヶ所でチャイルドサポート活動報告会

「チャイサポハロハロ」がサポーターのご協力（会場提供なども含む）により開催され、延べ200名を超える来場者がありました。サポーターの方々の子どもたちが、現地で教育を受ける機会を与えられてどのように生活しているのか、またその家族や家族の住むコミュニティが、どのように変化してきているのか、フィリピン、ウガンダ、ボリビアの現状からお伝えしました。

会場では貧困地域に何世代にもわたって続く「貧困の連鎖」をいかに断ち切り、「愛の連鎖」へと変革していくのか、ワークショップを交えて共に考え実践するヒントを見いだすことができ、「サポートしている子どもたちの生活がよくなりました!」との感想や、「愛の連鎖に加わりたい!」と声をあげて新たにサポーターになってくださる



参加者同士でグループワーク



沖縄アンバサダー Saki さん



親善大使 上原令子さん



沖縄アンバサダー 東江千鶴さん

方もありました。

報告を聞いた子どもたちは泣きながら「自分たちにできることを始めたい」と話してくれました。

各会場では、ご自身もサポーターである親善大使シンガー上原令子さんや沖縄アンバサダーの Saki さんと東江千鶴さん^{あがりえ}が歌やトークで花を添えてくださいました。

また、6月には同じ沖縄で、そして東京でもチャイサポハロハロを開催する予定です。貧困地域の子どもたちの教育支援を通して、その子や家族が、

そしてそのコミュニティが自立へと変革していく働きを応援してください!

●お問い合わせは東京事務所 ☎ 03-3518-0781 まで。



“チャイサポ”とはチャイルドサポートの略で、“ハロハロ”とはタガログ語の「ませごぜ」という意味です。「支援する側、される側」という関係ではなく、皆が一つとなって共に生きてゆこう!との思いが込められたネーミングです。



ハンズ・オブ・ラブ・フィリピン

HOLPFI 困難に立ち向かうマイの人々

分校から本校開設へ一歩

2017年10月よりピナマラン県サファ村小学校のマイ分校としてスタートして、はや1年半が過ぎようとしています。その間、村のリーダーと教育省との話し合いで、将来的な必要から分校ではなく、本校として開設するための可能性とその準備が進められてきました。実際、本校とは距離も離れており分校と言うこと自体に無理がありました。

本校として開設するための最大の障害は学校の敷地でした。またマイ村自体も人口が増え、狭い谷間に寄り添うように住んでいるためにマイ村の住民たちも移転先を探していました。

教育省から与えられた条件と村の現状、そして将来の必要を考えた結果、村人と村のリーダーが出した答えは、本校開設ができる土地に村ごと引っ越すことでした。

土地取得に向けて

一般に途上国の問題の一つに、人々が持つ財産に関する権利が法律上十分保証されていないこと、人々が法律や土地取得の仕組みを十分理解していないので適切な方法

で管理されていないことがあります。

ここフィリピンも同様で、特に土地に関しては、法律よりも以前の慣習が優先されるという私たちには理解しがたい状況があり、さらに近年住民固有の権利がそこに加わり、その土地の使用状況、権利がどうなっているか複数の官庁に問い合わせないと分からないという現実と向き合う必要がありました。

日本では土地の権利は、法務局にいけばすぐに分かりますがフィリピンではそうではありません。調べるためにお願いの手紙を作成し、ミンドロ島からマニラにきて官庁にお願いして、その返事を待ちます。私たち主導でやればそれなりの時間短縮になりますが、それでは地域の代表はいつまでたっても私たちを頼ります。私たちのスタッフが同行しつつ、手続きの仕方を一つ一つ学んでいただきました。

結果として分かったのは「土地の権利を登記している人はいないが、所有権を認められている人がいた。その記録は、1979年にまでさかのぼり、その方はすでに亡くなっている。」権利は血縁者に相続されることになっていて二人の娘さんにその権利があることまで突き止めました。その記録にある人と今の土地の使用者の父親の間で、権利委譲



今後の土地取得に向けて話し合うマイの住民



住民がいなくなり建物だけが残るマイ村（※教会堂だけは新村に移設）



アルサビ村

があったらしいのですが、その書類はありません。今の土地の使用者はその息子さんです。いま、その息子さんと具体的な交渉に入っています。

マイ村からアルサビ村へ

2019年2月マイ村の代表アーマン氏から、NPA（新・人民軍と呼ばれる毛沢東主義を標榜する共産ゲリラ、フィリピン中の山地にいる）から村人を守るために村ごと移転候補地に移動したとの連絡を受けました。昨年末よりNPAの活動が活発化しているとの情報がありましたが、選挙時期（今年5月に予定されている）になると活動が活発化する傾向はいつものことですし、そもそも公式には2012年以後、ミンドロ島にはNPAはいないことになっているはずで、あまり危機感を感じていませんでした。今回、NPAの接触があって初めてわかったのですが（村人の多くや教会の代表は知らなかったと言っています）、前村の代表はNPAに従うことを約束していたらしいのです。

今回のNPAの接触は、新しい代表に今までどおり、マイ村がNPAの活動に協力することを要請するために来たようでした。新しい代表はその要請を断ったのですが、このNPAはあきらめず二日とあけずに村を訪ずれ、危機感を感じた村の代表は移動を決断したということでした。村のリーダーの一人、フィン氏の父親は、NPAを家に泊めた

ことが原因で協力した見なされてフィリピン軍に射殺されたと聞いています。村人の多くはNPAに協力することは別のリスクを負うということを理解しており、アーマン氏は今回のNPAの要請を拒否したと思われます。

今の土地の使用者は、売ること、緊急避難的にマイ村の人がアルサビに住むことは了解していますが、現在の土地の取引をしている状況でのこの出来事は土地の使用者にあまりいい感情を与えていません。学校はとりあえず仮教会堂でおこなわれています。

仮設の家は決して快適とは言えず、元々人が住んでいない場所であるので、私たちも行って分かったのですが、体に害する虫も多く早急に住む環境を整える必要があります。

今まで積極的にコミュニティの問題解決に取り組むことがなかった、十分な教育を受けていないリーダーたちが、相談をしながら解決の方法を考え、問題に取り組んでいることはコミュニティの人々にとって大きな変化です。この変化に他のコミュニティのリーダーたちは驚いています。マイ村のリーダーの行動が実を結ぶことができるよう、続けてご支援いただければ幸いです。



移転のための計画を立てている村のリーダーたち



アルサビ村の仮教会で学校を再開



バナナ等の果物の農作物用のカゴ担ぎ体験で子どもたちと交流



HOLPFI 活動地訪問

ハンガーゼロ沖縄アンバサダー 前田進一郎

■ 現地の人々の可能性を引き出すアプローチ ■

この度フィリピンのミンドロ島にあるアルサビ村での活動を見させて頂く機会が与えられました。

アルサビ村に到達するまでの道中、収穫したものを近くの村（と言っても徒歩で2時間）へ売りに行く数名の子どもたちがいました。テレビでは見たことのある光景ですが実際に裸足で歩く子どもたちを見たとき、衝撃が走ったのを覚えています。

アルサビ村は電気、水道、ガスの通っていない150人ほどが暮らす小さく静かな村ですが、質素な家、質素な暮らしの中に常に笑顔が溢れる素敵な村でした。

今回はJIFH フィリピン駐在スタッフの酒井ご夫妻が活動しておられる Hands of Love Philippines (以下「HOLPFI」)の活動を見させて頂きました。VOC Program (コミュニティ自身でその可能性、ビジョンを見つけ、その目標に向かう助けを行う) による活動現場で一番感じたことは、心から村の方々を思い、ただ必要を与えるだけでなくいかに自分たちの力で生きていくことが出来るか、そのポテンシャルを

しっかりと見極め、適切なアドバイス、援助、助けを村人と寄り添いながら行っている、という事でした。

時には大きな忍耐と時間を要する局面にも、酒井ご夫妻また現地のフィリピン人スタッフが愛に溢れる笑顔で村人と話し合い、時には村人によるビジョンの実現のために計画づくりの支援や講習会などを通して必要な知識、技術を伝えていく姿には大きな感動を覚えました。

僕の人生の中に光輝くひと時

無邪気な子どもたちと遊んでいる中、彼らが将来への夢を持ち、大きく育ててほしい、いつの日かこの村のホープとなってほしい、と心から思いながら、その祈りを込めながら彼らと遊べた時間は尊く、僕の人生の中に光輝くひと時となりました。

「心地よい、気持ちのいい」という表現では足りない素晴らしい朝を毎日迎え、昼は鶏や馬、虫の合唱団、静かな夜には満天の星。自然が残るというよりも自然そのものの中に暮らす村の方々と3日間という短い時間ではありましたが共に過ごさせて頂き感謝でした。

人々が村の将来を考えると、子どもたちへの教育の大切さに気づき、村に小学校の分校ではなく本校を建設するためには、もっと広い土地への移転が必要だと、今回の村ごとの引越しとなりました。このアルサビ村の方々が将来への大きな可能性の中からビジョンを見出しそれに向かって進んでおられる姿に、祈りとともにアンバサダーとして応援していきたいと思います。同行の田村スタッフと HOLPFI の皆さんに感謝いたします。



前列①酒井夫妻、後列に田村スタッフと前田さん、⑥端は一昨年来日したエバスタッフ

●前田 進一郎 (バリトン 歌手)

昭和音楽大学声楽学科卒業。第4回マダム・バタフライ国際コンクールにて日本人唯一のファイナリストとなり入選。

新国立劇場をはじめ、数多くのオペラやコンサートに出演。音楽現代などの専門誌で高い評価を得る。「賛美と証し」「御言葉から学ぶ発声法」など様々な文化伝道を、日本をはじめ海外でも精力的に行う。藤原歌劇団団員。ハンガーゼロ沖縄アンバサダー。

「開発途上国の子どもたちを取り巻く大きな課題」

開発途上国の人々が直面している大きな課題の1つは貧困です。チャイルドサポーターの活動の最終的なゴールは、貧困に苦しむ地域の人々が助け合い、自分たちの力でこの貧困から脱却する道を切り拓いていけるようになることです。

この活動では弱い立場に置かれている子どもたちに焦点を当てています。子どもたちを取り巻く問題を改善していくことで、子どもだけではなくその地域のすべての人々の暮らしがよくなると共に、人々が自らの能力を生かして自立していけるよう、寄り添い励ましなが、「終わりのある支援」「卒業」に向けた支援を続けます。その道のりは10年、あるいはそれ以上になるかもしれませんが、皆さまが共にその過程を歩んでくださり、パートナーとなっていただけることを願います。

【教育】

貧困の連鎖を断ち切るためには、子どもたちが継続的に教育を受けられる環境を整えることが大切です。校舎を建てても先生がいなければ子どもは教育を受けられません。保護者が教育の価値を理解していなければ、子どもたちは学校に通い続けることができません。

【生活の向上】

日々の食事に事欠き、生きていくだけで精一杯の状態では、子どもの教育など将来のことまで考えるのは難しいのが現状です。収入が安定しなければ、子どもに栄養のある食べ物を十分に食べさせることはできません。また、病気になっても医者に診せることもできません。

【保健衛生】

清潔な水が入手できない、手洗いの習慣がないなど不衛生な環境では、子どもが病気に罹るリスクが高まります。

保護者に栄養についての知識がないと、子どもたちは栄養が偏り身体の抵抗力が弱まります。

そのため、下痢などの病気で命を落とす子どもも珍しくありません。また医療へのアクセス、乳幼児死亡率の高さなど貧困に苦しむ地域では多くの保健衛生に関する課題があります。

【防災】

災害が多い地域では、災害に対する予防と対策がなければ、人々はいつまでも貧困から脱することができません。また、災害に対する備えを知らないために命を落とすという危険もあります。

課題解決のための取り組みの例

【教育】

教育の重要性を保護者に話し、子どもたちが継続的に学校教育を受けられる環境を作ります。

地域リーダーの育成や地域の将来を担うリーダー（子どもたち）の育成を行います。

子どもたちだけではなく、保護者や地域住民に対しても様々な教育の機会を提供していきます。

【生計の向上】

貯蓄グループを作り、家計の管理や貯蓄の習慣を学ぶ機会を提供します。実地トレーニングを通して、農業、家畜の飼育、小規模ビジネスなどを支援します。

【保健衛生】

手洗いの習慣がない地域では、衛生教育を行い、地元にある資材で簡易手洗い設備を作って家族全員がその習慣を身に付けられるように指導します。また水資源の確保、保健衛生教育、栄養指導、妊婦や母子ケア、病気の予防と治療など様々な活動を行います。

【防災】

被害を最小限に留めるための訓練や計画など、地域に合った災害への備えをします。

※国や地域によって内容は若干異なります

チャイルドサポーターさんにお届けする資料



- きずなノート 子どもと家族の紹介、地域の情報と子どもからのあいさつの手紙が届きます。
- 手紙で交流 あなたがサポートする子どもと、手紙のやりとりでつながることができます。
- 成長記録 子どもたちの1年間のできごとや写真などが送られてきます。
- 活動報告 サポートしている地域の活動報告が1年に2回届きます。
- クリスマスカード 子どもたちからのクリスマスカードが届きます。

チャイルドサポーターのお申し込みは最終面をご覧ください



始めました！
QRからどうぞ



ハンガーゼロ(日本国際飢餓対策機構)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、飢餓啓発を行っています。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、18ヵ国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころからだの飢餓」に応える活動をしています。

ご支援とともに本紙をご愛読をくださり感謝申し上げます。
本号は4・5月の連休に対応して発行日を繰り上げいたしました。



～非常用備蓄食～
救缶鳥ジュニア
3種類の味になりました

非常備蓄食「救缶鳥 Jr」に新たにブルーベリー味とストロベリー味の2種類が加わりました。災害時に、ふたを開けるとすぐに食べられるやわらかいパンの缶詰を備蓄食としてどうぞ。

【1缶 100g 入り×24缶】
オレンジ、ブルーベリー、ストロベリー3種類の味が各8缶
1セット本体価格：9,000円
送料：日本全国 1,000円
合計 10,000円(+税)
※4セット以上は送料無料

お支払い方法：

- ①代引き(お届け時に商品代金と代引き手数料をお支払い下さい。)
- ②当社指定口座へ先払い

郵便払込口座 00950-0-216776
(株)キングダムビジネス

ご入金確認後約2週間程でお届けします。2年半後に回収し、飢餓や災害に苦しむ人々の食料として届けます。(回収は任意です)
※写真⑥は「アフリカ・ガンビアに届いたパンの缶詰」の報告です。

【お申し込み先】

株式会社キングダムビジネス
電話 06 (6755) 4877 ウェブサイトからも、注文ができます。

「第6回 メサイアコンサート」

佐倉メサイアをうたう会

同会主催による「メサイアコンサート」(指揮：春日保人)が、5月18日(出午後1時(開場 12時半)から千葉県佐倉市民音楽ホールで開催されます。今回もコンサート収益から寄付(ケニアの小学校トイレ設置)をしてください。

チケットは2,500円(全席自由)。
入手方法は以下から。

- ①メディアチャパ ☎ 03-3727-0479
- ②チケットぴあ ☎ 0570-02-9999 [Pコード 133276]



1月号でお知らせしたガンビアに送った「パンの缶詰」(救缶鳥)が子どもたちに届きました!

ハンガーゼロ自販機で国際協力

飲み物を買うと1本につき10円がハンガーゼロに寄付されます。また防災対応の自販機を設置していただくと、緊急災害時の備蓄用としてパンの缶詰、水各96個が無償で提供されます。現在、全国で102台が稼働中です。



【2017年募金実績】 2,890,817円

設置のご相談は大阪事務所までどうぞ。

サポーターお申込み欄 FAX072-920-2155

氏名	
(TEL)	
住所	〒
申込日	年 月 日 NL 346号

※記入後にスマホで撮影し、下記メールアドレスにお送り頂いても受付いたします。

<input checked="" type="checkbox"/>	下記から希望されるものをお申し込みください
<input type="checkbox"/>	ハンガーゼロサポーターとして協力します。 ①毎月()円 □ (1円 1,000円) ②一時募金として 円協力します。
<input type="checkbox"/>	継続募金(JIFH サポーター)として協力します。 毎月()円 □ (1円 500円)
<input type="checkbox"/>	チャイルドサポーター(子ども1人毎月 4,000円)の説明書(申込書)を送ってください。
<input type="checkbox"/>	郵便自動引落とし申込書を送って下さい。
<input type="checkbox"/>	その他の銀行自動引落とし申込書を送って下さい。

上の申込書をコピーして必要事項を記入の上、FAXまたは郵送にて大阪事務所までお送りください。届きましたら確認書類等を送らせていただきます。お電話やウェブサイトでも申し込みできます。

Hunger Zero サポーター 現在... 4590口

■発行者 清家弘久

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス <http://www.hungerzero.jp>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック facebook でハンガーゼロで検索

- 募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト
- ①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構
 - ②他の金融機関からの自動振替③クレジット、デジタルコンビニ



大阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
東京 (広島) 〒101-0062 千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル 517号室
TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
愛知 〒460-0012 名古屋市中区千代田 2-19-16 千代田ビル3F
TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132
沖縄 〒900-0033 那覇市久米 2-25-8 メゾンク米 202号
TEL (098)943-9215 FAX (098)943-9216
USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL (510)568-4939 FAX (510)293-0940



Hunger Zero



JIFH



チャイルドサポーター